



石川 正議員

Q 生徒数の見直しと学校のアンバランスについてはどうか。

A 平成19年度539人、平成26年度846人がピークで、以後やや減少する。管理面では、校長の負担が過度にならないよう配慮したい。

Q 放課後子どもプランへの取組み状況は。

Q 春木中学校舎の増築について

A 鉄筋3階建て640㎡、延面積1480㎡8教室、費用4.1億円平成20年度完成

Q 目下調査検討中である。早急に計画を作り、展開したい。

Q 交通基本政策

A 交通基本計画が必要と考える。

Q 交通に対する基本的な考え方は。

A 交通弱者への施策・交通空白地帯の解消である。

Q 歩行者・自動車・公共交通等を含めた総合的な

Q 第5次総合計画の中で基本的な方向を示していきたい。

Q 地域公共交通会議の平成20年度検討テーマは何を考えているか。

A 特に考えてない。名鉄バス押草路線については、運行実績がある程度出た時点で検討を実施したい。

Q 町有地の活用について

A 町有地はどれくらい保有しているか。

A 80筆、7万2800㎡。売却可能は8000㎡位と思う。

Q 資産価値はどうか。

A 約3億円位と想定。

Q 活用計画はいつなっているのか。

A 現在計画はない。



春木中学校校舎



町民への情報誌「広報とうごう」



有元洋剛議員

Q 回収率を高めるため、広報車による街宣に努めていたが、広報誌「とうごう」にも、PR記事を積極的に掲載すべきではなかったか。

A 検討委員会のまとめが広報の原稿締め切りに間に合わなかった。

Q アンケートでは、いこまい館への診療所移転が大きな問題と受け止められたが、3つの案から1つを選ぶには、あまりにも情報が少なすぎたと思うがどうか。

A いずれも見直しの方向性を決めるための案である。どの案も公平に取り扱った。

Q 診療所の見直し

A 4月から医療制度が

Q いこまい館見直し2回目アンケートの回収数は満足すべきものと考えているか

A 3月3日現在で30%近くは一般的だが、貴重な意見として充分活用したい

Q だが、3つの案から1つを選ぶには、あまりにも情報が少なすぎたと思うがどうか。

A いずれも見直しの方向性を決めるための案である。どの案も公平に取り扱った。

Q 診療所の見直し

A 4月から医療制度が

Q 「広報とうごう」の編集方針は。

A 情報誌として町民全般に広く読んでいただくこと。中学生にも読んでもらえる平易さ、見やすさや、正確な情報をタイムリーにと心がけている。



近藤 鑛治議員

Q 施設の整備は。

A 愛知池中央監視棟で今年夏から町民のボート出し入れできるようにする。東郷町グリーンベルト構想を協議しながら境川・前川・愛知池周辺の整備をしていきたい。

Q プール利用の充実は。

A 7月の土・日と8月末までの期間、東郷小、兵庫

Q 第4次総合計画の中で「スポーツ/レクリエーション体験」の進捗状況について

A 町を囲む環境も町民ニーズの変化もありスローテンポとなっている

Q 小で般開放を実施。

Q 各部活動の指導者育成と確保は。

A ボート指導としてC級指導員8名、その他21名の外部指導者を登録。学校関係の各部活動の指導をお願いする。特に中学校のボート部指導者は不足があり、ボート協会に相談中。

Q 町民体育大会の廃止

A 各区分自治会単位、または中学校区ごとのイベントを各区分自治会で主導のもと開催し、町が運営補助をしていきたい。

Q 総合体育館アリーナの月曜夜間開館は。

A 施設サービス(株)と調整中であるが、4月より試行開館を始めるので是非

Q 新設交番について

A 新設交番が諸輪に建設されると報道されたが、県が、2009年度開所する「諸輪交番」の予算を計上する運びとなった。旧御岳集会所跡地に建設され、24時間の三交替体制、エリアは、町北部地区を予定。今以上に安全・安心な町になるよう新設交番に期待、警察・行政・地域が一体となった安全な町づくりを推進していきたい。



諸輪交番建設予定地(旧御岳集会所跡地)



特定健診を行ういこまい館



山下律子議員

Q 現在のがん検診の内容と受診率は。

A 胃がん検診など6種類実施しているが、平均して受診率は14%ほど。

Q がん検診の受診率は市町村で違うが、東郷町の状況はどうか。

A 愛知県内の名古屋市を除いた市町村の受診率の平均を下回っている。

Q 町民の健康を守るために「がん検診」を受けやすくする施策を

A 受診率のより一層の向上のためがん検診案内と申込書を全戸配布する

Q 国の目標である受診率50%を達成するために、がん検診の自己負担額を引き下げるはどうか。

A 今すぐ引き下げることとは考えていない。今後、研究していきたい。

Q 生活習慣病の予兆現象であるメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の該当者を見つけ、予防することで医療費の伸びを抑制すること。

Q 従来の基本健診よりも検査項目が減ると、病気の早期発見ができにくくなる危険性はないか。

A 医師が必要と認める

Q 特定健診について

A 4月から新しく始まる特定健診の目的は

Q 「今の体制のままで、特定健診 特定保健指導は行える」とのことだが、それでもいこまい館の改修や新たな施設の増築が必要か。

A いこまい館の見直しは、特定健診のためにするわけではない。また、特定健診のための新しい施設を作るといったことも考えていない。

場合には、心電図や眼底検査など、3項目の検査を上乘せで行えるので、サービスの低下になるとは考えていない。